



HOSEI SPORTS INFORMATION MAIL MAGAZINE 36 野球部 加藤 重雄監督インタビュー

加藤 重雄監督 プロフィール

1956年生まれ、鳥取県出身。鳥取西高校から法政大学に入学。ひとつ上の学年には、花の49年組こと江川卓らがいた。3年生からベンチ入りし、4年春にはリーグ戦5勝、秋には4勝の成績を残した。卒業後は日本生命に就職し、オール近畿メンバーとして世界大会にも三度出場している。

2014年7月から、法政大学野球部のピッチングコーチとして関わりはじめ、2021年1月より野球部の監督に就任。



2021年4月10日からは春季リーグが開幕。優勝回数トップを目指し、各方面から期待がかかる。



野球はいずれ辞めるものだが、 「あの時の努力」を思い出す瞬間が必ずある

1915年に創設された法政大学野球部。数々の有名選手を輩出しながら、六大学野球優勝回数46回（2021年3月時点）と早大と並ぶ最多の優勝回数を誇っている。

この歴史ある法政大学野球部の新監督に2021年1月から就任したのが、OBでもある加藤重雄監督だ。卒業後は日本生命で活躍。2014年から法政大学のピッチングコーチを経験し、監督に就任した。どんな気持ちで就任したのか、また監督が指導の中で大切にしていることも伺った。

「お世話になった野球部に恩返ししたい、そんな気持ちで監督に就任致しました。野球に対する真面目な姿勢は私が学生の頃と変わっていませんね。私自身が大切にしてきた“文武並進”の精神を今の学生たちにも伝えていきたいと思っています。野球は一生プレイヤーを続けられるものではありません。いずれ辞めるものです。しかし、必死になって努力したその経験を思い出し、将来活かせる場面が必ずあるんです。技術面だけでなく心の部分でも私が経験してきた全てのことを惜しみなく、学生たちに伝えていきたいと思っています。」

2021年のスローガン 『橙志（とうし）』 に込めた想いとは？

野球部では、毎年4年生を中心にスローガンを掲げています。2021年のスローガンは、法政カラーになぞられた『橙志』。



歴史あるオレンジ色の志を胸に、攻め続けられる「闘志」を燃やしたいと選手たちが考え出した言葉なんだとか。特に、六大学野球への思いは強く、こんな時代だからこそ結束の力を野球でみせていきたいと教えてくれました。

「東京六大学野球の歴史は長いですが、勝利の歴史は先輩方がひとつひとつ積み重ねてきたもの。受け身になるのは一番簡単。自らを鼓舞させ、神宮の舞台で輝いて欲しい」と加藤監督。

2021年度のチームは、法政カラーのように明るく爽やかなチームとのこと。これまでのようなスタンド応援は難しくなりましたが、**全試合無料ライブ配信も決定**しています。ご自宅から野球部の『橙志』を目に焼き付けましょう！

ライブ配信について詳しくは**東京六大学野球連盟のサイト**をご覧ください。

<https://www.big6.gr.jp/index.php>

“大学野球らしさ”を大切に

誠実で誇りある野球ができる人材を育成

現役の選手や学生はもちろん、大学OBも力が入る「東京六大学野球」のシーズンを迎えるが、2020年は新型コロナウイルスの影響もあり、全体練習は監督が就任してからわずか2回ほどしかできていないという。

しかし、加藤監督は「今年のチームは、チームワークが素晴らしい」と語る。厳しい状況下の中、どのような練習をしてきたのだろうか。

「クラスターを避けるため、全体練習はほとんどできていません。個人練習にも2時間の上限を設けて行っていました。しかし、1日24時間はどの大学にもどの生徒にも平等に与えられているもの。その時間を何もせずに過ごすのか、努力するかは彼ら次第。率先して自主練習や弱点克服に向けて取り組んでくれていたのは嬉しかったですね。努力してきたことも知っていますし、チーム力はどこにも負けない和の強さがあるので、ひとつでも多く勝って優勝に導いてやりたい、そんな気持ちです。」



2021年1月から新体制で走り出した野球部。これからの目標を伺った。

「春のリーグ優勝はもちろんですが、そのためにもズルはしない、嘘はつかない、言い訳をしない、正直で誠実な大学野球らしい野球を目指しています。監督という大役をいただいたので、選手たちを自分の子どもだと思って育てていきたいですね。」

と、優しい笑顔で語ってくれた加藤監督。困難な状況下でも真摯に野球と向き合ってきた野球部には、努力の分だけ結果が必ずついてくると感じた。